



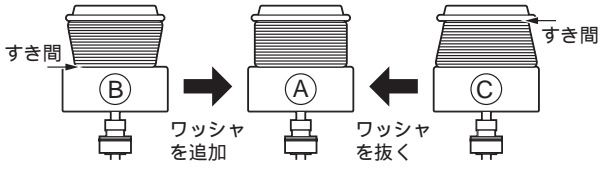
## 操作方法

### 糸巻き形状の調整方法

ステラシリーズは糸巻表示で品番にSの付いたシャロースプールタイプは100m、品番の後ろに何も付かない深溝タイプは150mぴったり巻ける太さのラインを巻いたときに、図(A)のようなテーパのない平行な糸巻き形状になるように設計されています。それより細い糸になる程逆テーパ(B)になりやすく、太い糸になるほど順テーパ(C)になりやすいため、いずれの場合もライントラブルの原因になりやすいものです。付属の調整ワッシャによりなるべく(A)に近い状態に巻き上げていただくことをお勧めします。調整方法は以下の手順です。

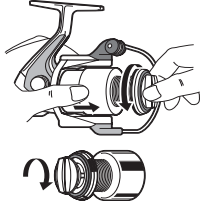
メーカー出荷時はスプールワッシャを3枚装着しており、付属の調整ワッシャは0.5mmが2枚、0.25mmが2枚です。

- (A) 理想とする糸巻き形状(糸巻表示で上記の100mまたは150mぴったり巻ける太さのラインを巻いた場合)...スプールワッシャ3枚装着が標準  
(B) 逆テーパでスプール下端にすき間を生じる( Aより細い糸になる程なりやすい)...スプールワッシャ3枚にワッシャを追加する  
(C) 順テーパでスプール上端にすき間を生じる( Aより太い糸になる程なりやすい)...スプールワッシャ3枚からワッシャを抜く



### スプールの脱着方法

取りはずし方  
ドラグツマミを反時計回りにまわしてください。  
取りつけ方  
スプールをゆっくり回しながら、スプール軸が完全につきぬけるまで入れ、ドラグツマミを時計まわりに回して締めつけてください。



### 下巻きラインゲージの使用法

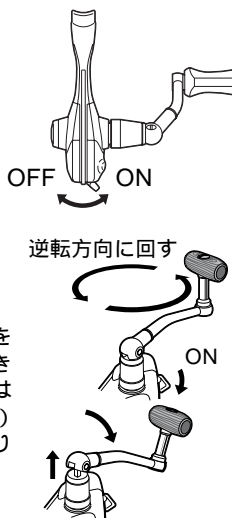
付属の下巻きラインゲージを使うことで、好みの太さの糸を選んで巻くときに、どこまで下巻きが必要なのかを簡単に知ることができます。それぞれの機種に、最も組み合わせることの多い4種類のパターンを用意しました。(ラインの銘柄により若干の誤差が出る場合があります。)

1. 下巻のように付属のゲージをスプールに垂直に差し込み、号数マークをスプールの外周に合わせます。
  2. スプールとゲージの間にできたすき間(図の斜線部)が下巻をする範囲です。ゲージに当たるまで下巻をしてください。
- 下巻きゲージは1000・2500・C3000は1枚、3000・4000はナイロン/PE用の2枚です。



### ストッパーツマミの操作

リール後ろから見てツマミが左に倒れている時(OFF) 逆転止めがかかり、ハンドルは正転方向にしか回りません。通常の巻取りやドラグで魚とやりとりする時に使用します。同様に、ツマミが右に倒れている時(ON) 逆転止めが解除され、正転・逆転どちらの方向にも回ります。ハンドル逆転による糸の送り出しができます。



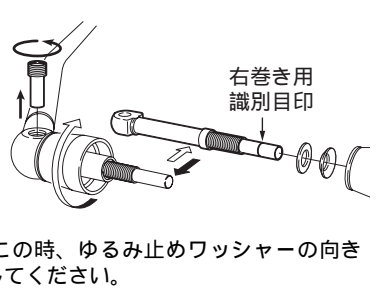
### ハンドルの折りたたみ方法

ハンドルはネジ込み式になっています。たたむ時はストッパーツマミをONにしハンドルを数回逆転方向に回転させ、ハンドル軸をやや引き出し、ニギリ側に倒してください。のぼす時はたたむ時と逆します。(図は右手巻の場合です。) この時ハンドルを緩め過ぎますと、本体より抜け落ちますのでご注意ください。

### ハンドルの左右付け替え方法

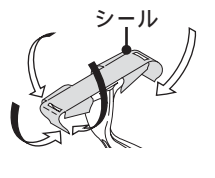
下記の要領でハンドル軸の交換を行ってください。工場出荷時のハンドル組は左巻き専用になっています。右巻きにする場合は以下の要領にて組み替えた後、本体にねじ込んでください。

1. ハンドル軸ツバを時計まわりに回してはずします。この時ゆるみ止めワッシャをなくさない様注意してください。
2. ハンドル根元のボルトをゆるめてはずし、付属の右巻き用ハンドル軸と入れ替えます。
3. 逆の手順で組み立てます。この時、ゆるみ止めワッシャの向きと順番を間違えない様注意してください。



### リール脚裏保護シールの使用方法

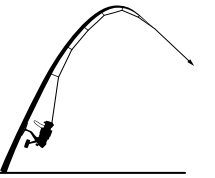
ステラシリーズを装着する竿のリールシートが金属製の場合、付属のリール脚裏保護シールを装着していただくことをおすすめします。リールシートとの干渉による特殊表面処理層の損傷を和らげ、耐蝕性を維持する効果があります。



### ドラグの調整方法

ドラグはその強弱を調整することによって急激な魚の引きに対し、スプールが空転して糸切れを防ぐ機構です。

1. 実際に使用される竿に本体をセットし、道糸をガイドに通してください。
2. ストッパーONの状態、図のように糸を引き出しながら、ドラグツマミの締めつけを調節してください。ドラグ力は右に回すと強くなり、左に回すと弱くなります。
3. 通常は糸切れを起こす寸前の力でスプールが空転し、糸が出ていくように調節してください。また遠投などする時は、必ずドラグをよく締めつけてから投げるようにしてください。ドラグが滑って糸で手を傷つけることがあります。



## お取り扱い上の注意

ステラは精密部品で構成されていますので、下記注意事項を守ってお取り扱いください。

### ご使用上の注意

ステラを使用する竿に取付けてみて、不具合がないか、まず確認してください。  
根掛かりした時には、竿やリールで無理にあおらないで、手にタオル等の布切れを巻いて、できるだけ釣場に糸が残らないように引き寄せて切ってください。  
ステラは丁寧に扱ってください。移動時、特に磯渡しの際の投げやり、バッグ内での他の道具との接触による破損には十分ご注意ください。  
砂浜、磯の上で竿を立てるとき、石突きを強く打ち込むとショックでリールの脚部が折れることがありますので、必ずゆっくりと竿を立ててください。  
水中での使用、およびお手入れには対応していませんので、水没させないように注意して下さい。(万が一リールが水没し内部に浸水した場合、下記「海での使用後の基本的な

メンテナンス」を参照) また、むやみに分解されますと、シール部品が破損したり、その性能を損なう可能性がありますので充分ご注意ください。

ローターの内部に位置するローラーベアリング部にはグリスを絶対につけないで下さい。グリスがローラーの動作に悪影響をおよぼし、ストッパーが効かなくなることがあります。

高温、高湿の状態では長時間放置されますと、変形や強度劣化の恐れがあります。長期保存をされる場合は、上記のお手入れを実施後、風通しの良い場所で保存されるようにしてください。ご自分で分解・修理をされる場合は、部品のエッジ等で手を切らないようご注意ください。

- お願い
- ・リールの状態は使用頻度のみならず、使用環境、使用方法、対象魚等によって大きく異なります。回転時のゴロつき、引っ掛かりの症状が出た場合は、直ぐさま弊社サービスへ、そうでもなくとも半年に1度はお預けいただくことをおすすめいたします。最寄りの小売店にてお受けしております。
  - ・リールを水没させ数時間放置しますと、ドラググリスが水に

- 流れ出てしまいます。ご注意ください。
- ・オイル、グリス類は当社指定のもの( SP-003H、SP-013A、SP-023A )をお使いください。そうでない場合の品質の保証はいたしかねます。ご注意ください。
  - ・釣行後は竿にセットしたままにせず、リールをはずして水洗いしてください。竿にセットした状態で水洗いされても、リールシートのフード部とリールの脚に溜まった海水を洗い流せない事がしばしばあります。
  - ・A-RB(耐塩水ベアリング)は錆びにくいベアリングです。ベアリング内部に塩水が侵入する(塩噛み)のを防ぐものではありません。

ベアリングの塩噛みについて  
基本的なメンテナンスを怠ると、ベアリング内部に塩水が残り、乾燥して塩噛みを起こす恐れがあります。錆びている訳ではありませんが、同様に音鳴り、ゴロつき等の症状が出ます。乾燥した塩を拭拭する事は殆ど出来ません。例えばA-RBであっても、完全な解消方法はベアリングの交換しかありません。ご注意下さい。

## 保管とメンテナンスについて

### 保管上のご注意

海での使用後は、下記「海での使用後の基本的なメンテナンスの方法」で塩分を取り除き、良く乾燥させて保管ください。保管の際は必ず竿から取り外してください。  
高温多湿で閉ざされた空間(自動車のトランク、ボートのストレージなど)に放置されますと、特にマグネシウム部品の耐蝕性を維持できなくなる恐れがあります。よく乾かして風通しの良い場所に保管してください。  
マグネシウム製の部品は特殊表面処理の被膜で耐蝕性を保っています。硬い物とぶついたり、こすり付けることで傷付き被膜が破れますと、耐蝕性が維持できなくなりますので充分にご注意願います。

### リールが水没し、リール内部に浸水した場合のメンテナンス

万が一、リールが水没してしまいリール内部に浸水した場合は、釣具店を通じて弊社アフターサービスへ修理を依頼して頂くか、又は、下記の手順で水を抜くようにして下さい。

図のようにオイルインジェクションのキャップを外し、その部分から下になるようにして水を抜き、充分に乾燥させた後シマノ純正リールオイルスプレー(リールメンテナンススプレー: SP-003H)を注入して下さい。

注意 取付ネジは締付け過ぎないように注意して下さい。(締付トルク9.8~19.6N/cmが適当です。)

### 海での使用後の基本的なメンテナンスの方法 (オイルインジェクションで簡単・安心) EASY MAINTENANCE

通常、海での使用後は1.2.の水洗いと乾燥だけで十分です。およそ5回の使用に1回、また次のご使用までに1ヶ月以上の期間があく場合は、3.の注油を併用するとより効果的です。オイルインジェクションの採用で、リール内部へのオイル補給も容易です。

1. 水洗い...シャワー等の真水で水洗いしてください。リールに付着した塩分、汚れを洗い流します。図A  
温水はグリスを洗い流す可能性があるためお避けください。また、同様の理由でリール本体を水没させないでください。竿にセットした状態で水洗いされましても、リールシートのフード部とリール

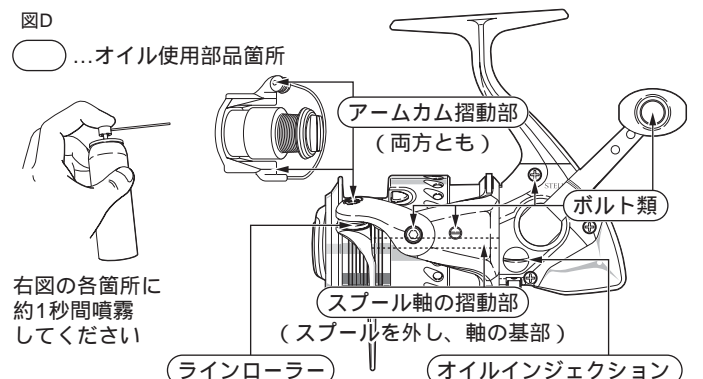
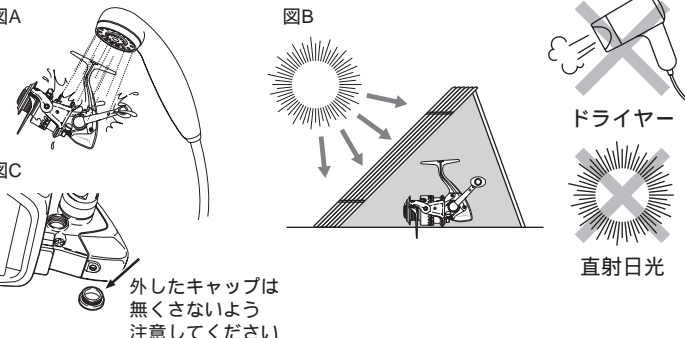
2. 乾燥...しっかりと水を切った後、直射日光を避け、陰干ししてください。図B  
直射日光、ドライヤー等は内部のムレを引き起こします。水を切り、乾燥させる際にオイルインジェクションのキャップを外しておくことより効果的です。図C  
外したキャップは無くさないよう注意してください。

3. グリス、オイル噴霧...グリス噴霧箇所とオイル噴霧箇所は 図D を参照していただき、間違えないように噴霧して下さい。グリス、オイルはシマノ純正品(別売・下記)をお使い下さい。

シマノ純正リールメンテナンススプレー (SP-003H) ¥1,700  
リールグリススプレーとリールオイルスプレーの2本セット販売です。小売店にてご注文ください。  
注油の際は、オイル、グリスが飛び散り周囲を汚すことがあります。換気の良い場所で注意して行ってください。

お願い  
グリス、オイル類はシマノ純正品(別売)をお使いください。そうでない場合の品質の保証はいたしかねます。ご留意ください。

注意  
ドラグ部のお手入れには、スピニングリールドラグ部専用グリス(DG01)をご使用ください。お取り寄せは最寄りの販売店へご注文ください。



オイルインジェクションへの噴霧は...  
マイナスドライバーでキャップを外し、オイルスプレーを注入して下さい。(右図)1回の注入は約1秒までの噴射が適当です。  
注入しすぎるとあふれたオイルで衣服等を汚すおそれがあります。  
オイルスプレーの注入が終わりましたらオイルインジェクションのキャップは必ず装着して下さい。

### お手入れの方法

各部に付着したゴミ、砂などは上記「海での使用後の基本的なメンテナンスの方法」にしたがって、お手入れをして下さい。表面に付着した汚れの場合は、真水に浸した柔らかい布で、きれいに拭き取って十分乾燥させて下さい。又、シンナー、ベンジンなど揮発性溶剤は絶対に使用しないで下さい。  
グリス、オイル類はシマノ純正品(別売)をお使い下さい。そうでない場合の品質の保証はいたしかねます。ご留意ください。

シマノ純正リールメンテナンススプレー (SP-003H) ¥1,700  
リールグリススプレーとリールオイルスプレーの2本セット販売です。小売店にてご注文ください。

## 製品のお問い合わせ・アフターサービスのご案内

弊社の製品、部品には全てコードがついています。製品のコードにつきましては図の中に表示しています。また部品につきましては分解図に載せています。  
製品の性能、スペック等のお問い合わせの際は図をご覧いただき、製品名と製品コード番号をお知らせください。  
例/製品名:ステラ1000S 製品コード: SC96B012  
リールのメカニズムの説明には書面で表しにくいことがあります。手紙でのお問い合わせにつきましては、必ずお客様の電話番号をお書き添えくださるようお願いいたします。

修理に出される際には、お買い上げの販売店へ現品をお預け願います。その際には必ず、修理箇所、不具合内容を具体的に(例/ストッパーが働かない)お知らせください。また、お近くにシマノ商品取扱店がない場合は、最寄りの営業所・本社(フリーダイヤル)または釣具サービス課へお問い合わせください。修理品は部品代のほか手数料をいただきますのでご了承ください。商品の故障等によって生じる他のタックルの破損、紛失、釣行費等は保証できません。  
ご自分で修理をされる場合の部品や替スプールのお取り寄せは分解図をご覧いただき、製品名・製品コード・部品番号・部品名をご指定の上、

ご注文ください。(内部の部品に関しましては、複雑ですのでリール本体ごと修理に出されることをおすすめします)  
例/製品名:ステラ1000S 部品番号: 2  
製品コード: SC96B012 部品名: スプール

